

教師が知っておきたい「子供の自殺防止」

【「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」リーフレット】巻頭言 文科省 平成21年3月

(略) しかし、子どもの自殺予防に対する関心は必ずしも高いとはいえないのが現実です。

このリーフレットは、平成21年2月に児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議で取りまとめられた「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」のマニュアルの一部を抜粋したものです。マニュアルは、教師の皆さんに自殺予防に関して是非とも知っておいていただきたい基礎知識を中心にまとめたものです。

自殺は「孤立の病」とも呼ばれています。子どもが発している救いを求める叫びに気付いて、周囲との絆を回復することこそが、自殺予防につながります。自殺が現実になってしまう前に子どもは必ず「助けて!」という必死の叫びを発しています。学校で毎日のように子どもに接している教師の皆さんこそが、この叫びを最初に受け止めるゲートキーパーでもあります。一人でこの問題を抱え込まずに、周囲の同僚たち、子どもの家族、医療従事者などと協力してこの危機に向き合ってください。



【平成26年度 学校経営方針より抜粋】

やってはいけないこと

教員の「待つ姿勢」と「指導から逃げる」ことを混同しない

- 1 **一人で事に当たろうとする** : どんなプロでも一人で解決できることは少ない
- 2 **まだ待てるかもしれない** : 早期対応・迅速な対応を怠ると負の連鎖が始まる
- 3 **大騒ぎをしたら恥ずかしい** : 教員は一時の恥、子供の命を損ねたら永遠の損失
- 4 **苦情を気にして指導を躊躇する** : 指導ができなければ苦情程度では済まない
- 5 **子供の「大丈夫」を鵜呑みにする** : いじめも怪我也も子供はみんな大丈夫と言いたがる

【最近の報道より】

西東京市 中2男子 父親から虐待で自殺 学校は暴力把握も通告せず

警視庁田無署は7月31日までに、中学2年の長男(14)の顔を殴ってけがをさせたとして傷害の疑いで村山彰容疑者(41)を逮捕した。同署によると、長男は自殺しており、体中に数十カ所のあざがあったため、日常的な虐待が自殺につながった可能性があるとして詳しく調べる。西東京市教育委員会によると、**中学は長男が父親から暴力を受けていることを把握しながら、児童相談所に通告していなかった**。長男は6月13日から中学を休んでいた。

愛知県 中2女子 飛び降り自殺 学校生活の悩み自殺か

8月31日午後9時10分ごろ、愛知県安城市三河安城のマンションで「女の子が転落したようだ」と119番があった。マンション12階に住む同市立安城西中2年の女子生徒(14)が敷地内に倒れており、首の骨を折るなどして病院で死亡が確認された。

県警によると、女子生徒の部屋から遺書のような手書きのメモが見つかった。自殺の可能性があるとみている。**メモには学校生活の悩みが記されていた**が、個人名は書かれていなかった。

大田区 小6女兒2人 飛び降り自殺? 周囲に「勉強が大変」と訴え

9月5日(金)午後3時35分ごろ、東京都大田区下丸子のマンション敷地内で、区立小学校6年の女兒2人が倒れているのが見つかった。いずれも搬送先の病院で死亡した。女兒らが書いたとみられる遺書のようなものが見つかった。

女兒らの同級生によると、2人とも中学受験を目指し、**周囲に「勉強が大変。睡眠時間が削られて疲れている」などと訴えていた**。